

Cross of Heart

Feature 特集

脊椎・脊髄外科紹介

適切な診断を行い、患者さん一人ひとりにあった治療を提案します。

Japanese Red Cross Fukuoka Hospital

新年のご挨拶

MRIが最新型にリニューアル

部署紹介

地域医療連携室

Information

お問合せ電話番号 新設

Introduction 登録医のご紹介

医療法人 ふくだ内科循環器・糖尿病内科

医療法人 大石整形外科眼科クリニック



福岡赤十字病院

日本赤十字社

病院の理念

地域とともに世界を視野に信頼される最善の医療を

基本方針

1. 質の高い安全な医療
2. 救急医療
3. 国内外の医療救援活動
4. 地域連携
5. 教育・研修・研鑽
6. 患者・職員満足度の向上



福岡赤十字病院 院長
寺坂 禮治

Cross
of Heart

新年明けましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

昨年は、台風15, 19号および前後の豪雨が中部日本に大きな被害をもたらしました。現地へは周辺の赤十字病院から計140班の医療救護班が出動いたしましたが、最近の災害では災害ボランティアの活躍が際立っています。

日韓関係は史上最悪といわれています。歴史や政治は人が創り操るもの。ならば人の知恵で上手に解決していただきたいものです。

消費税はついに10%に上がりました。当院のような病院では大量の医療材料を消費しますが、軽減税率や救済措置はほとんどありませんでした。病院経営はますます厳しさを増しています。

ただ明るいニュースもありました。まず、新天皇がご即位され平成から令和に元号が変わりました。即位の儀は高貴で重厚な雰囲気ではありましたが明るい爽やかな気分も感じ、この気持ちを大切に今年も過ごしたいと思い

ます。世界ラグビーではとてつもない感動を味わいました。今年は待望のオリンピックの年です。再び元気を頂きたいと思います。また吉野彰さん、旭化成の研究者、民間の研究室からのノーベル賞受賞は快挙でした。

昨年当院には、最新型のMRI装置(3テスラ)を導入いたしました。迅速正確な診断がさらに期待されます。また昨年来、心臓の不整脈である心房細動のカテーテル治療を精力的に行ってています。高齢化社会では確実に増加する心臓疾患の治療を、今年度は一層充実させます。

さて、今話題の医師の働き方改革は難問です。日本の医師数はまだ不足であるうえ、医師の診療科偏在や地域偏在という問題も生じています。とは言え社会は医療を恒常に必要とします。私どもは変わらず人を救い続けるという使命を果たすため、たゆまず努力いたします。本年もよろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

MRIが 最新型(3.0T)にリニューアル！

16年間頑張ってくれたMRI装置に別れを告げ、令和元年12月、最新クラスの3.0T MRI、“Ingenia Elition”(PHILIPS社)が導入されました！

MRIの心臓部ともいえるコイルシステムが一新、高精細な画像を提供することが可能となったうえIngeniaの意味する“機知・器量”の名に負けない豊富なアプリケーションが搭載されており、より幅広い撮影法に対応できるようになりました！

様々な臨床ニーズに応えるポテンシャルを持つ新型MRIとともに頑張ります！

新しい検査法などの相談がございましたら当院放射線科部まで御連絡ください！

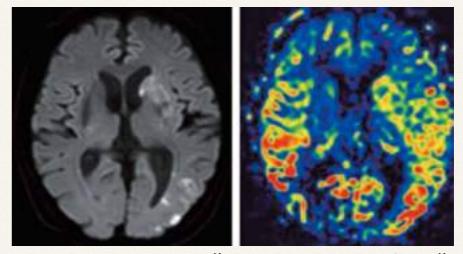


トンネル内が広くなりました！



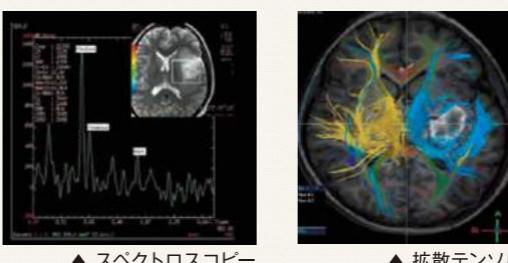
ギュウギュウだった空間に若干の余裕が生まれ、窮屈さが減少、また快適性を重視して開発されたコンフォートマットレスが、検査の間、同じ姿勢で寝ておく辛さを軽減してくれます！

脳梗塞の早期発見！



新しくASL(非造影の脳灌流画像)検査が出来るようになりました。超急性期脳梗塞の診断におおいに役立ちます！

脳腫瘍の撮影がパワーアップ！



MRスペクトロスコピー(腫瘍成分分析)、拡散テンソル(脳神経線維の描出)検査が出来るようになりました。脳腫瘍の術前検査でより多くの情報を提供してくれます！

検査中の動きに強くなりました！

高速撮像技術が搭載され、息を長く止められない方や、長い時間じっとしていられない方でも、画質をあまり落とさずになるべく短時間で撮れるような工夫ができるようになりました！

Feature

当院で今、何が起きているか——
医療・健康・時事 最新の情報をお届けします

診療科紹介 脊椎脊髄外科

脊椎脊髄疾患と四肢の痛み・しびれ

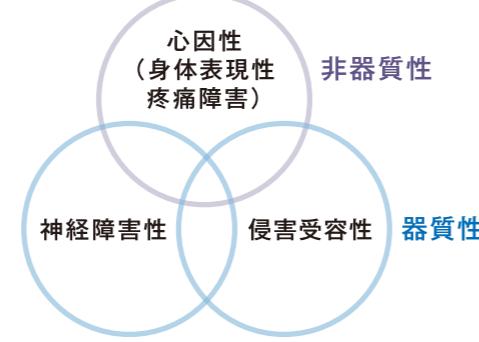
社会の高齢化進行によって加齢性変化に伴う疾病に悩まされる方は今後も増加することが予想されます。運動器を扱う診療科である整形外科でも、他の臓器・組織と比較すると再生能力に乏しい軟骨の障害や摩耗に伴う変形性関節症の患者さんは、骨粗鬆症を背景とした骨折の患者さんと共に増加の一途をたどっています。

また運動器の中で「脊椎」も、言うまでもなく加齢性変化が生じる事をまのがれえず、場合によっては生活の質を低下せしめるような手足の症状を来すことがあります。

脊椎は体を支える「屋台骨」であるのと同時に脊髄や馬尾神経といった神経の「容器物」でも有り、脊椎の経年変化によって構築的な変化が生じると手足のまひ症状を含む様々な神経の圧迫症状が生じます。このうち痛みやしびれは患者さんの生活の質が低下しやすく治療のニーズが高い症状の一つとなります。

一方で痛みとは「不快な感覚及び情動体験」と定義されていて、必ずしも身体的・器質的な異常が無い場合もあります

【図1】



神經障害性疼痛の一部においては脊椎手術にて治療可能なもののが含まれるが、実際には上記の要素が複合している場合が多い。

(図1)従って、痛みやしびれの原因を特定するための正確な診断が必要となります。

当診療科の特徴

脊椎疾患において、痛みやしびれが非常に強い場合でも投薬や安静などの保存療法で症状が消失する場合も多いため、まず保存療法が有効か検討します。

また、小生の痛覚情報伝達及び神経生理に関連する複数の研究機関(九大統合生理学教室/Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical School麻酔科/自然科学研究機構・生理学研究所/総合研究大学院大学)での痛覚情

豊富な治療経験と
良好な手術成績で
安全な治療を基に
痛みに関する基礎研究経験
を基に**対処**。

報処理及び神経生理学に関連する基礎研究経験を基に、原因が判然としない痛みの病態理解や適切な対処法に対して徹底的に調べ、考えます。

また手術が有効かつ必要と考えられる場合にはなるべくピンポイントで必要最小限の介入で除痛効果が得られる治療を提案いたします。手術が必要となる場合においても必要最小限の切開や出来るだけ出血や組織へのダメージを減らすための工夫を行います。

痛みの治療

痛み情報伝達の調節には色々な階層での可塑的变化が関連しており、

- (1)神経細胞内環境
- (2)神経伝達効率に関連するシナプスレベル
- (3)細胞間相互作用
興奮性-抑制性神経細胞間や神経-神経膠細胞間の相互作用
- (4)痛覚閾値を調整する脳幹部からの脊髄

今月の表紙



整形外科 スタッフ

下行性調節系などの神経システム

- (5)共感や情動に関連する脳神経核から
痛覚伝達経路への修飾

(6)心理社会的背景

など多岐に及んでおり、痛みの診療においてはどれも大事な要素で有りますが、「痛みで困っている状況」というものを考える際にはこれらの階層を意識しながら「木を見て森を見ず」という状態にならないよう、患者さん毎に適切な診断を行い、治療を提案したいと考えています。

整形外科では運動器(四肢の骨や関節、脊椎とそれらを動かす脊髄や末梢神経など)疾患の診断と治療を行っています。

治療が必要となるのは、骨折などの外傷や椎間板ヘルニアを代表とする脊椎疾患、関節リウマチや変形性関節症による関節障害があります。

年間699例(2018年度)の手術を行って

おり、入院患者さんも大部分は手術目的の患者さんです。脊椎・脊髄疾患や骨・関節・疾患の治療経験が豊富で、MRIやCTによる画像診断を参考に、小さな手術侵襲で最大の効果をあげる安全な手術を心がけており、良好な手術成績を得ています。

近隣の病院や診療所との病診・病病連携も積極的に推進しており、患者さんが安心して治療できる体制を目指しています。



脊椎外科・部長
加藤 剛
Go Kato





当院は、平成23年4月に地域医療支援病院に承認され、もうすぐ10年目を迎えます。地域医療連携室は「前方連携」から「後方連携」、さらには「病床管理」までその役割を担い、地域の先生方と密に連携し、病院理念である「質の高い安全な医療の提供」に貢献することを使命に掲げています。スタッフは、地域医療連携室長と副室長の医師2名をはじめ、看護師7名、医療ソーシャルワーカー(MSW)6名、事務職員6名、事務パートおよび派遣職員2名の総勢23名で構成されています。

前方連携の医療連携課では、平成28年度に策定した「医療連携に対する基本方針」に基づき、「紹介は断らない」を大原則とし、円滑かつスピーディな連携を心掛けております。また、紹介患者さんの待ち時間の短縮を目指し、多くの診療科で事前FAXによる時間予約を行っております。

後方連携の入退院支援課では、看護師とMSWを配置し、入院前から患者支援を行うことにより、入院から退院までに問題となりそうなことをいち早く捉えて多職種で情報共有のうえ連携し、在宅復帰に向けた早期の退院調整・退院支援に繋げております。さらに、院内全体の病床管理を

Information

お問合せ電話番号 新設のお知らせ

この度サービス向上のため、当院のお問合せ電話番号を右記のとおり新設いたしました。

この新電話番号は、全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。また、携帯電話・PHS等からの通話料金は市内・市外・かけ放題プランを問わず、利用者様のご負担となりますことをご了承願います。

利用開始日 令和2年1月20日(月)
電話番号 0570-03-1211

ナビダイヤル(全国一律課金)

固定電話		携帯電話	
INS	ひかり電話	通常プラン	かけ放題プラン
8.5円／180秒	10円／210秒	10円／20秒	

Cross Heart 地域とともに! 登録医紹介

当院の基本理念である「地域と共に世界を視野に信頼される最善の医療」を行うための心強いパートナーとなる登録医の先生方をご紹介します。

医療法人 ふくだ内科循環器・糖尿病内科

Q クリニックの特長

当クリニックは循環器・糖尿病の専門機関として、「病気を知つていただくこと」を大事にしています。共に病気に向き合い、一人ひとりにあった診療を行います。食事については管理栄養士が、楽しく食生活の提案を行います。

また、福岡県内の診療所では数少ない心臓血管リハビリテーションの認定機関です。専門知識を持ったスタッフが、患者さんの病気を理解したうえで運動療法や生活指導を行います。不安や疑問も解消できる「楽しい治療」です。

Q 地域の皆様へ一言

地域連携医療機関をはじめ、福岡赤十字病院へは紹介・連携を多数させて頂いております。当院最寄りの「長住2丁目」から「日赤前」バス停まで、多い時間は1時間に11本の発着があり、交通の便も良いです。今後も密な連携を行い、最良の医療を提供できるよう向上につとめます。



院長 福田 佑介 先生
(日本内科学会総合内科専門医・日本循環器学会循環器専門医
日本糖尿病学会糖尿病専門医・日本高血圧学会専門医)
理事長 福田 圭介 先生
(日本循環器学会循環器専門医)
住所 〒811-1362 福岡市南区長住2丁目1-11
TEL 092-552-1122
診療科目 内科・循環器内科・糖尿病内科・心臓リハビリテーション科
診療時間 月・火・水・金 8:30~13:00、14:00~17:30
(初診受付は午前11:30まで、午後16:30まで)
木・土 8:30~13:00
休診日 木・土曜午後、日曜・祝祭日、年末年始
ホームページ <http://fukuda-c.com/>

医療法人 大石整形外科眼科クリニック

Q 当院の特長

医療法人 大石整形外科眼科クリニックは有床診療所として平成6年に開設し今年で27年目になります。整形外科・眼科疾患の治療をはじめ、様々な年代の地域の皆様の多様なニーズにお応えできるように、医療・疾病予防(外来・入院治療)、運動器治療・健康増進(リハビリテーション)、寝たきり・介護予防(デイケア)、介護(医療老人ホーム)を提供させていただいております。

当院では入院治療も行っており、連携基幹病院での急性期治療後の術後リハビリや保存的治療を継続していただけます。外来の患者様でも、外傷や圧迫骨折など、痛みで自宅での生活が困難な方では、適切な入院治療と局所安静、リハビリを行うことができ、在宅復帰・再発予防をサポートしています。

当院には理学療法士9名・作業療法士1名がおり、ストレッチ、マッサージ、運動療法、物理療法を併せたりハビリテーションを入院・外来いずれでもしっかりと行うことができます。痛み止めなどのお薬だけに頼らず、痛みの原因となっている部分を根本的に改善させる事で、痛み・運動機能・日常生活動作を改善します。

また、骨粗鬆症の治療・予防にも力を入れており、最も正確に骨密度を測定できる装置(腰椎・大腿骨DXA法)を導入しています。適切な骨粗鬆症治療を行いう事で、健康寿命を延ばし将来の介護予防にもつなげる事ができます。

Q 地域の皆様へ一言

整形外科の大石秀和と申します。私は十数年前に福岡赤十字病院で研修医として医師の基礎を学ばせていただき、九州大学整形外科へ入局後、市内外の関連病院で勤務し、昨年4月より当院で診療をさせていただいております。地域の皆様がいつも元気に歩いて過ごせて、日常生活の質が少しでも改善されるよう、また地域の皆様と医療機関から必要とされるかかりつけ医としてお役に立てるように、治療・予防・地域連携に努めてまいります。患者様に適切な治療を受けていただくために、病状に応じて各専門医療機関との医療連携(ご紹介)も行っています。「体を動かすこと」「見ること」でお困りの事がございましたらお気軽にご相談ください。



▲ 整形外科医師 大石 秀和 先生
(日本整形外科学会専門医・日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
認定スポーツ医・認定リウマチ医)



院長 大石 年秀 先生 (日本整形外科学会専門医)
副院長 大石 純子 先生 (日本眼科学会専門医)
住所 〒815-0082 福岡市南区大楠3丁目25-1
TEL 092-521-2250
診療科目 整形外科・眼科・リハビリテーション科
病床数 19床 (一般病床)
受付時間 月・火・水・金 9:00~12:30、14:00~17:30
(水曜日午後はリハビリ・眼科のみの診療)
木・土 9:00~12:30
休診日 日曜・祝祭日、お盆期間、年末年始
ホームページ <https://www.oishiclinic.com>

